

令和5年3月2日 基地周辺対策特別委員会 議事録
10時00分 開会

○出席委員 (7人)

委員長 北地 範久

副委員長 児玉 朋也

委員 末広 天佑、小中 真樹雄、中川 智之、和田 芳弘、寺岡 公章

議長 賀屋 幸治

副議長 網谷 芳孝

○欠席委員 (1人)

委員 山崎 年一

○北地委員長 皆さん、おはようございます。定足数に達しておりますので、ただいまより会議を開催いたします。

なお、山崎委員より欠席の届けが出ておりますので、よろしくお願ひいたします。

開会に当たり、市長に御挨拶をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

市長。

○入山市長 基地周辺対策特別委員会開催ありがとうございます。よろしくお願ひ申し上げます。

○北地委員長 ありがとうございます。

それでは、日程にしたがって進めさせていただきます。

まず、日程1、執行部報告事項についてを議題といたします。

執行部から報告をよろしくお願ひいたします。

課長。

報告が長くなるようでしたら、着座でも結構です。

○田中危機管理課長 おはようございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、まず、資料1から資料4により定例の報告をいたします。

1ページ、資料1、阿多田地区航空機騒音状況記録簿を御覧ください。

こちらは阿多田地区における日常の航空機の騒音状況について、漁協の職員の方にお願ひいたしまして、御自身や住民の方が感じたことの実情等について記録をお願いしているもので、昨年11月から今年1月までの間のものとなっております。

11月は7件、12月は6件、1月は10件、合計で23件の記録が残されております。多数の米軍機が上空を通過し、騒音により、電話や会話、それから、テレビの音が聞き取れないといったような状況が多く記録されているのが見てとれると思います。

また、12月でございますけれども、プロペラ機が上空を通過する際に重低音が響くというような記録も残されております。

この報告内容ですが、毎月、防衛省、中国四国防衛局岩国防衛事務所に騒音苦情の実態として情報提供するとともに、騒音対策への配慮と訓練等の情報提供についてお願ひをし

ているところでございます。

続きまして、3ページの資料2、航空機騒音自動測定装置による測定結果を御覧ください。

こちらは、阿多田島漁協の屋上に防衛省が設置しております騒音自動測定器で測定した航空機が飛来した際の音をデシベル値で表したもので、中国四国防衛局から提供いただいている資料でございます。

70デシベル以上を記録した日時と数値を1日単位、発生時間別に集計した結果となっております。こちらも11月から1月の内容となっております。

90デシベル以上を記録したところが黄色いマーカー表示になってございますけれども、これを数えてみますと、11月は27回、12月は66回、1月は83回とだんだん増えておりますが、3カ月で合計176回となっております。

前回の特別委員会で報告いたしました8月から10月までの3カ月合計が49回でしたので、比較してみますと4倍近くに増加していることとなります。

ちなみに昨年度も8月から10月は98回で、11月から1月が413回ということで、4倍以上に増加していたということで、同様の傾向が見られております。

なお、昨年度の11月から1月の合計413回に対しては、今年度11月から1月の合計176回ということですので、比較すると半分以下ということに減少していることにはなります。

続きまして、12ページ、今度は横長の資料3、岩国飛行場周辺の航空機騒音状況を御覧ください。

こちらは、防衛省が岩国航空基地の周辺市町25カ所に設置しております騒音測定器から計測された値を発生回数や昼夜の時間帯も加味しました、うるささ指数に変換して集計しているものでございます。こちら全て中国四国防衛局のホームページ上に掲載されているものです。

12ページから14ページまでの表は、月別の平均値を掲載したもので、4月から1月までの間のものが表示されております。15ページから23ページまでは、11月から1月までの毎日の計測の結果を示した表となっております。

大竹市の測定地点は、ナンバー7の阿多田島漁業協同組合とナンバー9のサントピア大竹です。

こちらの月別の平均値の表の上段、Ldenとありますが、Ldenの平均値で、測定地点のうち居住地に該当するものを比較してみますと、4月から8月までは、ナンバー7の阿多田島、これが最も高い数値をずっと示しておりますが、9月から11月までは、ナンバー8、岩国市由宇町にあります測定地点、こちらが最も高い数値を示しております。12月以降は、再び阿多田島が最も高い数値を示すという状況でございます。

続きまして、24ページ、資料4、岩国飛行場周辺の航空機騒音状況比較資料を御覧ください。

こちらは、先ほどの資料3の月別平均値の表の中段にありましたW値というものを折れ線グラフで表したものとなっております。測定地点ナンバー7の阿多田島とナンバー3、岩国基地の北側になりますが、岩国市三笠町東中学校の数値の比較の表となっております。

データの見方ですが、緑色の線が平成20年度で滑走路沖合の移設前、青色の線が平成28年度で沖合移設後、黄色の線の令和元年度と赤色の線の令和3年度が空母艦載機移転後の計測値を表しております。令和4年度については、黒い線で示されております。

昨年度と比較いたしますと、5月まではやや低い値を示しておりますが、6月から8月にかけて、これまでで最も大きな値を示しているというところが分かります。その後、10月に年内では最も低い数値を記録しているというのは、例年と傾向が異なっておりますが、11月から1月にかけて、再び上昇していくというのは例年と同様の傾向となっております。

先ほど、資料2の報告で、11月から1月の90デシベル以上の騒音発生回数が昨年の同時期の合計と比べて半分以下という説明をいたしましたけれども、この資料4からもW値を見ますと、11月から1月にかけては、昨年度に比べては低い値で推移しているというところが見てとれます。

定例の資料に関しましては、報告は以上でございます。

続きまして、その他報告事項、騒音コンター見直しに係る騒音度調査についてを説明いたします。

昨年、6月の特別委員会で岩国飛行場の第1種区域等について、騒音の実態に即したのに見直すため、騒音度調査が令和4年度から令和5年度にかけて行われる予定であることを報告し、以降の委員会で進捗状況等について報告してまいりました。

前回の委員会で説明いたしました可搬式の騒音測定器を用いた調査が1月24日から1月27日までの間、玖波漁港公園、晴海臨海公園、南栄1号公園、それから、海の家あたりの周辺の4地点で行われました。25ページの資料5、令和4年度騒音度測定調査というのを御覧ください。

こちら、本土側の3調査地点の様子を記録した画像となっております。25ページの上段が玖波漁港公園、1月24日に実施されたもの、下段が晴海臨海公園で、1月25日に実施されたもの、続きまして、26ページを御覧いただきたいんですが、こちらの上段が南栄1号公園で、1月26日に実施されたときの様子でございます。それから、26ページの下段に横並びで2つ画像がございます。左側の画像、こちらの三脚に取り付けてある黒いカバーがかかったものが騒音測定用のマイクロフォン、右側の画像、ちょっと分かりにくいんですが、画像の中央やや左側に白い小型の箱の上に丸いレンズのようなものが見えると思います。これが航空機追跡カメラだということです。こういった装置を用いまして、各調査日とも8時から16時までの間、機種や飛行コースによる騒音特性を調べるサンプリング調査というのが実施されたということです。

令和5年度の騒音度調査業務につきましても既に中国四国防衛局のほうで入札公告されておりまして、1番目に航空機騒音、これは、飛行騒音と地上騒音の2つがございますが、この測定データを得るための現地調査、2番目に実飛行回数等のデータ整理、3番目に飛行経路のデータ整理、4番目に地上騒音の音源位置や継続時間等のデータ整理といった実施項目の業務の発注先が今年度中に決定される見込みとのことです。

また、令和5年度中にこの調査結果を反映しました騒音コンター図の作成が行われるとのことでございます。

本件につきまして、今後、また新たな情報が得られましたら、委員会で報告いたしたいと考えております。

報告は以上でございます。よろしく申し上げます。

○北地委員長 ありがとうございます。

報告をいただきました。委員会の中では、今、定例の報告事項ばかりやっとなんですけども、今回は、新たに騒音測定ですか、こういうのも始まったという報告をいただきました。

いろいろありましたけども、よく分からない点ございましたら、質疑のほうをお願いいたします。全体的な話でもよろしいですし、何かありましたら、お願いいたします。

特にはございませんか。

議長。

○賀屋議長 おはようございます。

この騒音測定の1月25日と26日ですけども、特に25日においては、90デシベル以上の騒音というのは記録をされてないということみたいですけども、これは、たまたまその日に騒音測定をしたのかなと思うんですが、むしろ騒音がひどいこの結果表でいくと、黄色のマーカが多くついたところでの測定値であれば、実際の今、定点で示したところと、新たに今、コンターを作成しようとするところの差がどうあるのかというのは分かると思うんですけども、そのあたり、この調査というのは、今年度は1回きりでもう終わりなんですかね。その辺の頻度がね、ちょっとどうなんかと思うんですけども、もう少し、例えば月に何回かやる中で平均値を求めるとか、最大値を出していくとか、そういうことが必要なんではないかなというふうに思うんですけども。

それと、航空機追跡カメラというのがあるんですけども、これは、どの方向へ飛んだかというのが、その騒音の測定を察知した段階でどちらの方向に航空が飛んだかというのを確認するためのカメラということなんでしょうかね。これは、何のためのカメラか、よく分からんですけども。要するにどの航空機が、この騒音を出したのかという、その特定するためなのか。戦闘機なのか、それとも旅客機なのか、そのほかのヘリコプターなのか、その確認をするための追跡カメラということなんでしょうけれども、その辺をちょっとどういうふうな確認の仕方なのかというのが分かれば、お願いしたいと思うんですが。

それと、この3カ月において市民から騒音に対する問い合わせとか苦情とかいうのを直接市のほうに、あるいは関係機関のところに入ったというのがありますかね。あれば、紹介してもらいたいんですが。今、阿多田島のほうでモニター的にとってもらってますけども、阿多田島以外の市内で最近よく飛んでやかましいと、どうなってるんやというような問い合わせなり、苦情なりが入っておれば、この測定結果と照らし合わせて、時間帯であるとか、その辺もしっかり資料として、今後、防衛省のほうとの話の中で活用もされていくと思うんですけども、そういった苦情・相談的なものが入っておれば、お知らせを願いたいんですが。

以上です。

○北地委員長 課長。

○田中危機管理課長 調査について、今年度は1回きりなのかということなのですが、4年度中の調査業務に関しては、この4日間の1回きりということです。

調査の地点でございますが、大竹市は、先ほど御報告した4地点ですが、大竹市以外にも岩国市、和木町、それから、周防大島町のほうも含めて多数の箇所にこういったものを設置して調査をされているということでございます。

調査の頻度、来年度はどのような形でやっていくのかというのは、まだちょっと詳細がはっきりしておりませんので、また資料等出ましたら特別委員会で御紹介するか、あるいは資料提示、情報提供という形で議会のほうに提供させていただくことも考えたいと思いますが、今年に関しましては、1月のこの調査のみということでございます。

今回のこのサンプリング調査というのが、実際の騒音量、これは通常設置しております固定の騒音測定器でも、もちろん測定はしておりますが、このカメラとマイクのセットというのが、実際飛んできたときの方向であったり、機種が何なのかというところで、音の大きさだったり、音の持続がどのぐらい続くのかとか、そういった特性を調べていく調査なのだそうです。あまりちょっと詳しいことは、私も中国四国防衛局の方と、あと、実際に調査に来られていた業者の方とお話をして聞いたんですが、そういうものなのだそうです。

2点目にありました追跡カメラの件ですけども、丸っこい魚眼レンズみたいなものなんだと思うんですが、音に反応してどっちの方向に飛んでいったというようなのを、機影を写すような目的で設置されているということで、画像の横に、カメラの横に白いプラスチックのケースの上の用紙に文字で、これは調査道具なので触らないでくださいみたいなのが書いてあるのが見えると思いますが、その中に何かしら精密機械が入っているようです。マイクとカメラとが連動して、その飛行機の軌跡ですね、それを記録していくようなものだとお聞きしております。

それから、3点目、11月から1月の今回報告の期間に関する苦情でございますけれども、阿多田漁協のほうで記録しているもの以外の本土側の方からの苦情というのは、今回は入ってないです。大体1回か2回は何かしら、どうだろうかというような問い合わせがあるんですが、今回については入っておりません。

以上でございます。

○北地委員長 議長。

○賀屋議長 ありがとうございます。

今回のこの測定の回数は、この1回ということで、来年度も継続をされるということなのですが、音というのは、天気によって、あるいは風向きによって随分違うと思うんですよ。ということで、その辺の気象状況も勘案しながら、1回とかではなく、何回か、やはり大きな音が出るときをしっかりと記録できるように何回か測定を、モニタリングをしてほしいわけなんですけど、そういった方向での調査というのは、中国四国防衛局のほうで計画はされとるんでしょうけども、特にそういう要望を市のほうから出していただくということは大丈夫なんですか、できますかね。

○北地委員長 課長。

○田中危機管理課長 なかなか業者との契約ということもありまして、いつやってくださいとか、この頃がうるさいですよとか、この頃にやってくださいというのは難しいとは思いますが、例えば実態として、いつ頃が騒音の頻度が大きいのかというところであれば、やはりFCLPであるとか、そういったものが実施される前の頃ですね、これから先の時期になってきますが、その頃がやはり頻度・音量とも大きいので、やはり何かしらこういう調査を実施しようと思うということであれば、そういったときにぜひということは、事務レベルでは申し上げることは可能ですし、もし問い合わせがあれば、いつ頃がいいですかと言われれば、こういう時期が、やはり頻度が多いですということは伝えたいとは思っております。

以上です。

○北地委員長 議長。

○賀屋議長 もちろん、その飛ぶ頻度のタイミングもあるんですけども、先ほど言いましたように天候によって、幾ら飛んでも風向きが、逆に言えば、北風が強いときなんかは、ほとんどこちらのほうには、町のほうには音も下りてこないでしょうし、そういったことも踏まえて、いろんな気象状況を勘案したこのデータであるべきだろうと思うんですけども、そのあたりをどのように今度、測定した音に対しての分析をどのような気象状況の勘案の仕方をされるのかという、まあよく分かりませんが、そういうようなこともあるんで、1回で、もうこれですというのではなく、いろいろな状況の中でやりましたと、晴れ日もあって、雨の日もあったと、風が北向きのときもあったし、南向きの風もあったし、そういう中で何回か、データをとる中でこういうふう判断して、コンターをつくりましたというのなら、理解もできると思うんですけども、そのあたり1回で全てこの音量でしたというのでは、ちょっといかがなものかと思しますので、そのあたりもしっかり意見として伝えてほしいというふうに思います。

○北地委員長 よろしいですか。

○賀屋議長 何かあれば。

○北地委員長 何かあれば。

部長。

○佐伯総務部長 防衛省が主体として行う調査ですので、どこまで要望を聞いていただけるかというのはあろうかと思いますが、大竹市内でも4カ所、他の市町でもこういう調査をされるということですのでそういったものと、それから、毎日測定をしております定点の測定器と、そういったところを照らし合わせながら、防衛省のほうでは集計等をされていくんだろうなと思います。御意見があったということは、伝えていこうと思います。ありがとうございました。

○北地委員長 ありがとうございます。

委員会としての意見でございますので、しっかりと事務レベルで伝えておいてください。他に何かございませんでしょうか。

中川委員。

○中川委員 すみません、表を理解するのにちょっと時間かかってしまっ。

15ページからのL d e n値とかの表なんですけど、うるささ指数というのは、ちょっと分かりにくい部分もあるんですが、この中で大体土日がゼロに近いんですね。これはもう基地が土日やってない、動いてないと。ただ、みすみクリーンセンターだけは、ずっと土日もうるさいんですけど、これはあれですか、錦帯橋空港ということですかね。それちょっと分かれば、お願いします。

○北地委員長 課長。

○田中危機管理課長 ちょっと推測を出ないところもありますが、土日の訓練があることもあります。ですが、みすみクリーンセンターですね、これが滑走路の近くにあるやつなんですけれども、先ほど説明の中でちらっとお話ししたんですが、飛行騒音と地上騒音というのがございます。地上騒音が飛行機が発進する前と、それから、着いた後にも出てくるやつですね。こういったものも加味すれば、こういった騒音が記録されるということもこの岩国飛行場周辺であれば、ありえると思います。

以上でございます。

○北地委員長 よろしいですか。

中川委員。

○中川委員 あと、もう1つ、L d e n値って、うるささ指数、よく分かりにくいんですけど、この前、阿多田島に行ったときも、瞬間的にうるさいやつは少々我慢できるんですけど、でも、時間が長いと、本当に我慢できないと、もうええかげんにしてくれというぐらい思うんで、そういう値がこのL d e n値に反映してるということなんですかね。お願いします。

○北地委員長 課長。

○田中危機管理課長 これ、私も何のことか分からなかったので、町田市がホームページでこれ公開している資料から、ちょっと引用させていただくんですけども、L d e nというのが、昼間・夕方・夜間の時間帯別に重み付けを行った1日の等価騒音レベルということだそうです。これが、ちょっとややこしい話になってくるんですが、最新の騒音測定技術に対応し、1回の騒音に対する騒音レベルに夕方19時から22時の間は5デシベル、夜間22時から7時の間は10デシベルを加えて、1日の騒音エネルギーを加算した後、1日の時間平均をとってレベル表現したものですということ、現在、EUほかヨーロッパ諸国など多くの国で採用されておりまして、国際的に主流になっている基準値でございます。日本でも2013年4月からこの基準値、平成25年で基準値を採用しているということでございます。

まさに先ほど、中川委員がおっしゃられたように、飛行機というのはだんだん大きな音になって、だんだん小さくなりますけども、音が大きくても時間が短ければ、影響は小さく、それほど大きい音でなくても長く続けば、影響は大きいと考えられるということで、デシベル値、音量の大きさだけでなく、同じ大きさの音であっても人が感じるうるささは、周囲が騒がしい昼間なのか、寝静まった深夜なのかということでこういう、うるささ指数で表現をしているということでございます。ということでよろしいでしょうか。

以上でございます。

○北地委員長 ありがとうございます。よろしいですか。

他にございませんでしょうか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○北地委員長 それでは、ないようでございますので、質疑のほうは終結させていただきます。

ちょっとお伺いしたいんですが、執行部のほうで今後何か要望活動とか、そういう計画がございますでしょうか。特には、今のところはないですかね。

(発言する者あり)

○北地委員長 ないですか。それと、寺岡委員が2市2町の副会長ですかね、岩国市とかでやっているやつなんですけども、その中で動きという何か情報がもしあれば。

寺岡委員。

○寺岡委員 最近は2市2町のほうからアプローチがありません。恐らくどこの市町も定期的にいろいろとばたばたしておられるのではないかなというふうに思います。

以上です。

○北地委員長 ありがとうございます。

周辺では、あまりそういった動きはないようでございます。

それでは、以上で、日程1については終了といたします。

以上で、全ての日程を終了いたしましたので、基地周辺対策特別委員会を終了させていただきます。

ありがとうございます。

10時29分 閉会